

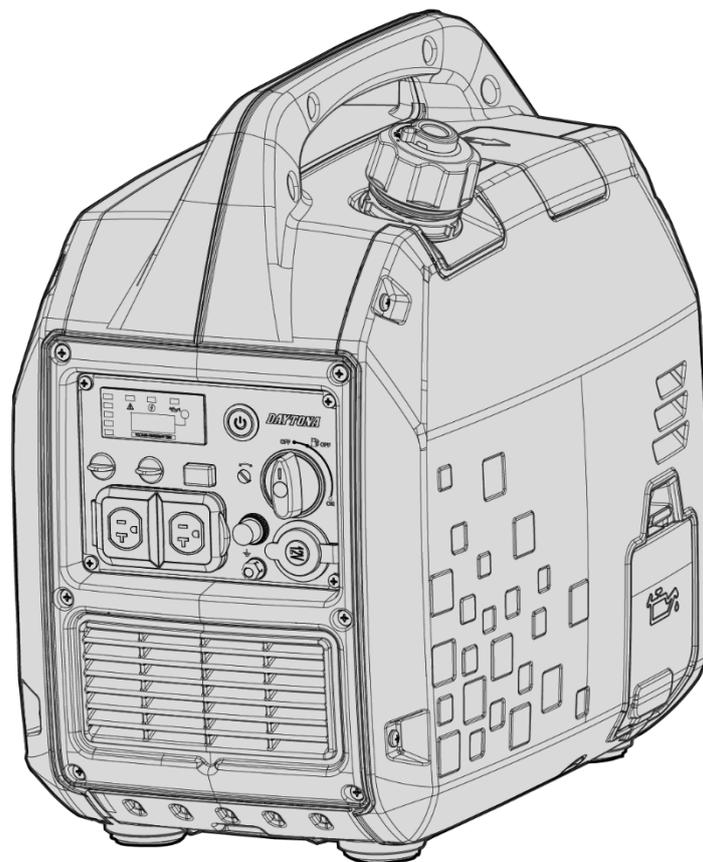
DAYGENE
セル 1900e
スターター

【品番:55004】

【品番:29965】

DAYTONA®

静音型インバーター発電機 取扱説明書



- このたびはデイトナ静音型インバーター発電機をお買い求め頂き誠にありがとうございます。
- ご使用になる前に必ずお読み頂き、内容をよく理解して正しくお使いください。
- この取扱説明書は、いつでも取り出して読めるよう大切に保管してください。
- この商品を第三者に譲渡する場合は、必ずこの取扱説明書も併せて必ずお渡しください。
- 取扱説明書内の注意事項を守らずに使用した事による事故や損害について、当社では一切の責任は負いません。
- 商品の保証については保証書裏面の保証規定に沿って行っております。
保証内容をご理解のうえ、この取扱説明書と一緒に大切に保管してください。

----- 【 目 次 】 -----

1.	安全にお使いいただくために -----	P.3
2.	使用可能範囲 -----	P.5
3.	開梱と同梱品リスト -----	P.6
4.	各部の名称と取り扱い -----	P.7
5.	運転操作 -----	P.11
	▪ 運転前に	
	▪ エンジンの始動	
	▪ 電源の取り出し方	
	▪ エンジンの停止	
	▪ マルチディスプレイについて	
6.	点検・保守・保管 -----	P.17
	▪ ①. 始業点検	
	▪ ②. 保守（定期点検）	
	▪ ③. エンジンオイルの交換	
	▪ ④. 点火プラグの点検と調整	
	▪ ⑤. キャブレター残燃料排出	
	▪ ⑥. エアフィルターの清掃	
	▪ ⑦. 保管（一時保管・長期格納）	
7.	故障診断 -----	P.24
	▪ エンジンがかからない	
	▪ 電気が出していない	
8.	製品諸元表 -----	P.25
9.	製品回路図 -----	P.26
10.	パーツリスト -----	P.28

1. 安全にお使いいただくために

■ ご使用前に必ずご確認ください ■

※取扱説明書内の注意事項を守らずに使用した事による事故や損害について、当社では一切の責任は負いません。

※商品の保証については保証書裏面の保証規定に沿って行ってまいります。保証内容をご理解のうえ、この取扱説明書と一緒に保管してください。

※本書では正しい取り付け、取扱方法および点検整備に関する重要な事項を、次のシンボルマークで示しています。

警告 要件を満たさずに使用しますと、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。

注意 要件を満たさずに使用すると、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。



実施



高温注意

行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

表記の注意を告げるものです。



禁止



火気厳禁

禁止の行為であることを告げるものです。

表記の注意を告げるものです。



警告



禁止

- ✓ 燃料補給を屋内や換気の悪い場所で行わないでください。ガソリンは非常に燃えやすく、爆発や火災の危険があります。給油はエンジンを停止させてから行ってください。万一燃料がこぼれた場合は、きれいに拭き取って乾かしてからエンジンを始動してください。また、給油中は十分に火気に注意して行ってください。
- ✓ 排気ガスには有毒な成分が含まれています。車内や室内など閉め切った倉庫や車庫の中等の換気の悪い場所や風通しの悪い場所での使用はしないでください。一酸化炭素中毒等により死亡又は重度の後遺障害の恐れがあります。
- ✓ 使用中、使用後のマフラー部は非常に熱くなっております。マフラー高温時には、マフラーに触れないでください。火傷をしたり衣服を焦がしたりする危険があります。また、高温の時は絶対にガソリンや引火性のあるワックスやクリーナー、塗料などのケミカル製品をマフラー等に垂らしたり吹き付けたりしないでください。火傷や本機の損傷、火災の原因となります。
- ✓ 電力会社からの電気配線には絶対に接続しないでください。本機に接続された電気機器が故障、火災や人身事故の原因となります。
- ✓ 箱を被せたり、周囲を囲ったり、上に物を乗せて使用しないでください。
- ✓ 濡れた手での操作、金属物をコンセントに差し込んだりしないでください。感電の恐れがあります。
- ✓ 運転中の点検整備、部品を改造したり、部品を外したまま使用しないでください。感電やけがの恐れがあります。
- ✓ 使用可能な場所かをご確認の上、使用ください。キャンプ場、イベント会場等では使用禁止のルールがありますので予めご確認の上ご使用ください。
- ✓ 本機に子供やペットが触れないようにし、安全な場所で運転してください。

⚠️ 注意

【火災のおそれあり】

- ✓ 発電機を使用する前に周囲にある危険物(油脂類、火薬など)や燃えやすいもの(紙くず、わら、枯れ草等の可燃物)を除去してから使用してください。
- ✓ 定格出力を超えた状態(過負荷)での使用はしないでください。
- ✓ 屋内配線に接続しないでください
- ✓ マフラー高温時にカバー等を掛けないでください。

【感電やけがのおそれあり】

- ✓ 傾斜させての運転、運転中の本機移動、濡れた手での操作、金属物をコンセントに差し込んだり、しないでください。
- ✓ 熱くなっているマフラーやエンジン各部を触らないでください。やけどや怪我の原因になります。
- ✓ 運転中でのプラグコード、プラグキャップや点火プラグは絶対に触らないでください。
- ✓ 運転中の点検整備、部品を改造したり、部品を外したまま使用しないでください。
- ✓ 子供には絶対に使用させないでください。
- ✓ DC12V はバッテリー充電以外に使用しないでください。
- ✓ 雨や雪の中での、使用はしないでください。電装部品の事故やショートが起きる原因となります。また湿気や凍結により、使用時に感電する原因となります。
- ✓ 取扱説明書に記載されている以外の分解や修理・改造は絶対に行わないでください。異常動作してけがをしたり、本機や本機に接続された電気機器が故障する原因になります。



実施

【故障のおそれあり】

- ✓ 使用するガソリンは必ずレギュラーガソリンを、規定容量を守ってご使用ください。混合ガソリンは使用できません。
- ✓ 補修部品、消耗品(エンジンオイル、点火プラグ)等は必ず推奨品をご使用ください。



法令違反

- ✓ 燃料を補給する場合には消防法に基づいた容器から行ってください。
- ✓ エンジンオイルを交換後、廃油は地面や排水溝などに捨てずに、環境保護のため法令に従い適切に処理してください。不明な点はオイルを購入されたお店にご相談ください。
- ✓ 本機を廃棄される際は、環境保護のためお買い上げになったお店や、お住まいの自治体へご相談ください。



その他

- ✓ 毎回使用前には、始業点検の実施、また定期点検も必ず行ってください。
- ✓ 本機を自動車等で運搬する場合は、しっかりと固定し倒れないようにし運搬してください。
- ✓ 使用中に異音、臭い、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買い上げ販売店またはサービス店にお申しつけください。
- ✓ この商品は、予告なしに価格や仕様の変更をすることがあります。また、本文中で紹介した商品についても同様です。あらかじめご了承ください。

2. 使用可能範囲（この発電機で使える範囲）

■ ご使用前に必ずご確認ください ■

※ ご使用前に、使用する電気器具の消費電力(W)をお確かめの上ご使用ください。

※ 再度、使用したい電気機器の消費電力と起動電力を確認します。電気機器によっては、始動時に消費電力よりも大きい電気を必要(消費電力の3~4倍もの電力が必要)となることもありますので、ご注意ください。

- ▶ 【消費電力】〇〇〇W(ワット) → その電気機器が消費する電気のことです。
- ▶ 【起動電力】〇〇〇W(ワット) → その電気機器の始動時のみに必要とする電気のことです。
- ▶ 消費電力【1000W】 = 定格出力【1kVA】 ※この発電機の定格出力は、**1.9kVA**です。



警告



禁止

✓ 発電機の使用可能範囲を超えると、発電機とそれに接続されている電気機器類が損傷します。

電気機器	消費電力(W)	起動電力(W) ※参考値	消費電力に 対する倍率
液晶テレビ(27インチ)	80	100	約 1.3 倍
ノートパソコン	20	20	約 1 倍
扇風機(家庭用)	50	100	約 2 倍
炊飯器(家庭用)	1300	1300	約 1 倍
電気ポット	1000	1000	約 1 倍
小型冷蔵庫(家庭用)	100	400	約 4 倍
大型冷蔵庫(家庭用)	250	1000	約 4 倍
ホットプレート	1300	1300	約 1 倍
コーヒーマーカー	650	650	約 1 倍
電子レンジ	1000	1800	約 1.8 倍
電気ドリル	300	600	約 2 倍
ハロゲンライト	250	500	約 2 倍
電動丸ノコ	600	1200	約 2 倍
水銀灯	400	1600	約 4 倍

3. 開梱と同梱品リスト

■ 開梱 ■

2人以上の成人で、箱から発電機を慎重に取り出し、強固で平らな場所に置いてください。必ず箱の中にある本機と付属品は取り出してください。

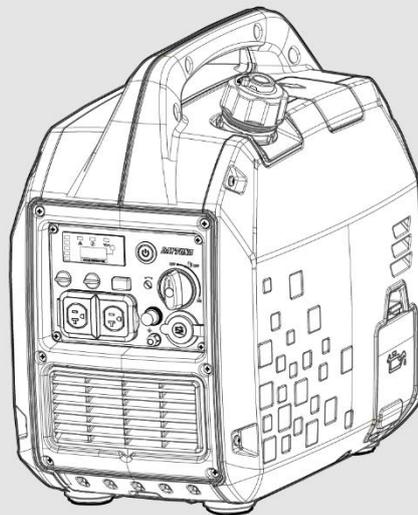
全て取り出すまで箱を廃棄しないでください。下記の同梱リストをチェックし全ての部品と付属品が揃っていることを確認してください。

部品が不足または破損している場合は、カスタマーサービス 0120-60-4955 受付時間 10:00～17:00

月曜日～金曜日（弊社指定の休業日、祝祭日を除く）、もしくは info@myfarm-daytona.jpへメールにてお問い合わせください。

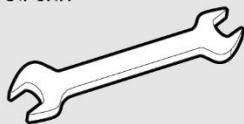
■ 同梱品リスト ■

本機

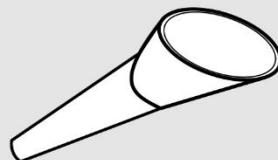


発電機

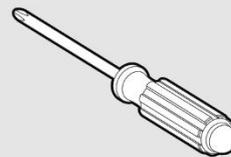
付属品



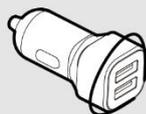
レンチ (8/10mm)



オイルジョウゴ



ドライバー



シガーソケット



点火プラグソケット



ステッカー



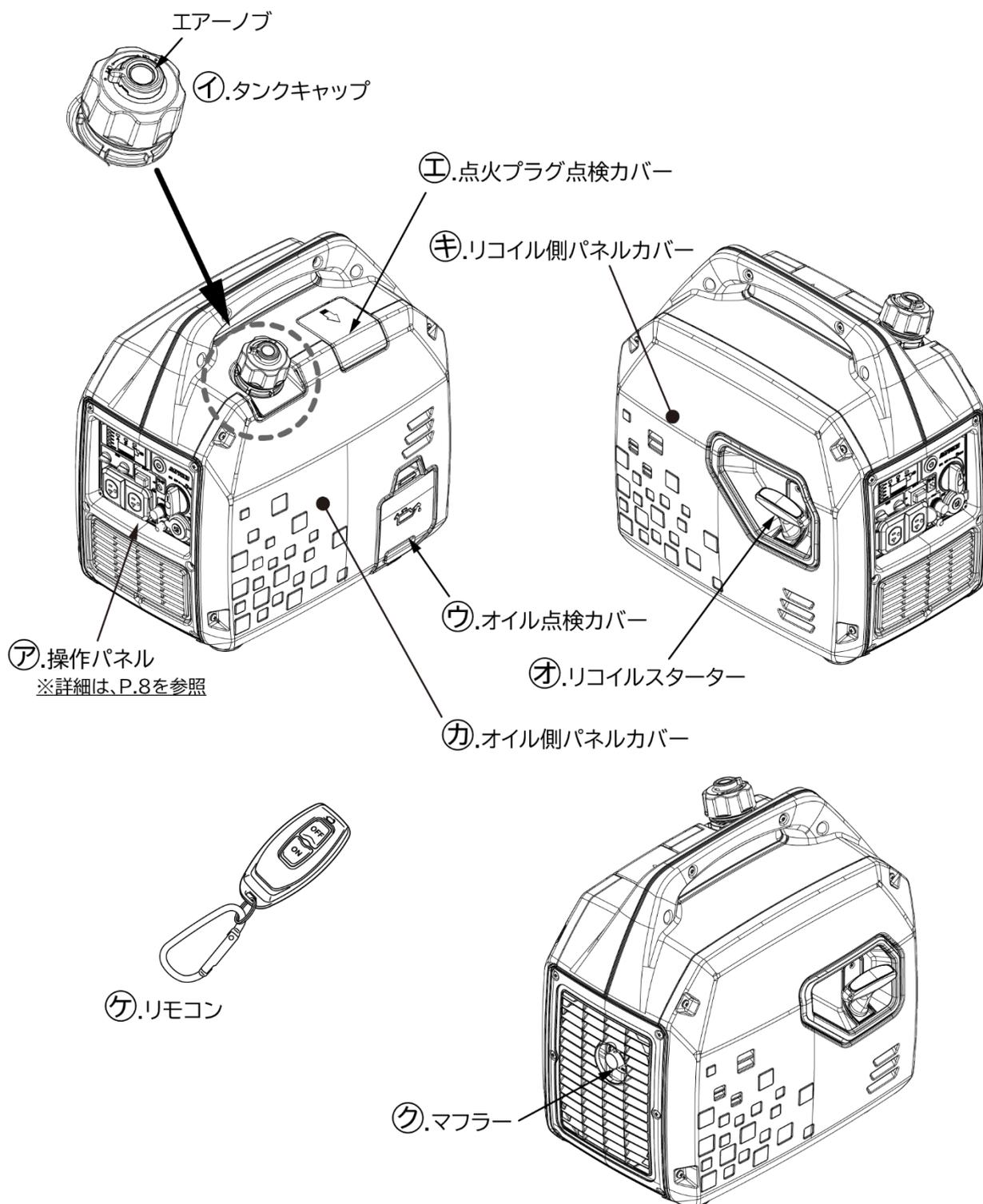
リモコン



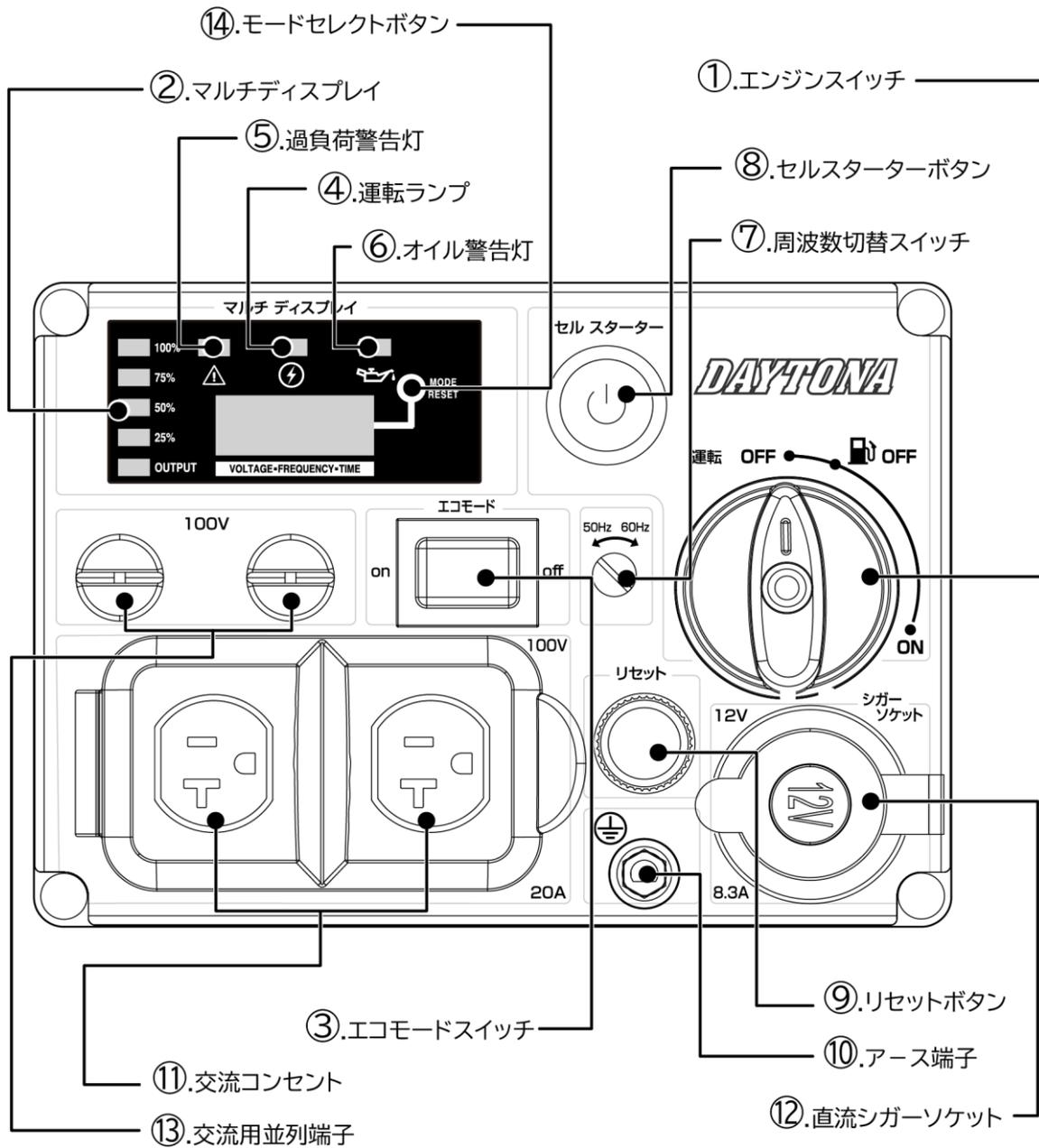
M6ナット

4. 各部の名称と取り扱い

■ 各部の名称 ■



■ 各部の名称 ■



■ 各部の取り扱い ■

①. エンジンスイッチ

- ▶ 本機の運転及び停止のスイッチです。
- ▶ 「燃料 OFF」で、ガソリンを遮断しキャブレター内に残ったガソリンを燃焼させた後、自動的にエンジンを停止させます。
(5分程度)
- ▶ 「ON」でエンジン始動及び運転。「OFF」で停止します。

②. マルチディスプレイ

- ▶ 発電機の出力状態や、出力電圧、周波数、動作時間等を表示します。
- ※詳細は、「P.16」を参照ください

③. エコモードスイッチ

- ▶ 電気の負荷に応じてエンジン回転数を、適正回転数で運転する切替えスイッチです。
電気負荷が変化すると、必要に応じて発電機のエンジン回転数が自動的に上がったり、下がったりします。
- ▶ エコモード【ON】→接続されている電気機器の負荷に応じ、エンジン回転数を制御し、燃費と騒音が抑制されます。
- ▶ エコモード【OFF】→電気機器の負荷に関係なく、定格エンジン回転数で運転します。



注意

- ✓ 電力負荷が 1000W 未満の場合のみ、このスイッチが有効になります。
- ✓ 総負荷が 1000W 以上の電力を供給する場合は、発電機のエンジンをフル回転させる必要があるため、エコモードスイッチは、作動させないでください。

④. 運転ランプ

- ▶ エンジンが始動し、正常に運転されている間、LED が点灯します。

⑤. 過負荷警告灯

- ▶ 接続電気機器への出力が過負荷になると、LED が点灯します。



注意

- ✓ 内部の回路を保護するため LED が点灯し、本機は発電のみを中止します。
- ✓ この時、④運転ランプが消えますが、エンジンは止まりません。

要点

- ◆ もし、過負荷警告灯が点灯した場合は下記の対策を取ってください。
 - ・まずは、エンジンを止めてください。
 - ・接続している電気器具の消費電力(W)を確認し、定格出力範囲内に減らしてください。
 - ・エンジンエア取入口が、塞がれてないか確認してください。
 - ・⑨リセットボタンを押して、回路をリセットします。

⑥. オイル警告灯

- エンジンオイル量が適正値より下回ると、LED が点滅します。



注意

- ✓この際、エンジン保護システムが自動的にエンジンを停止させます。
- ✓また、オイル警告灯が点滅している間は、エンジンを始動することはできません。

要点

- ◆ もし、オイル警告灯が点滅した場合は下記の対策を取ってください。
 - ・P.11 【5.運転操作】の【②.エンジンオイルの給油及び確認】を参照し、オイルを規定量給油します。

⑦. 周波数切替スイッチ

- 使用する電気機器に応じて、周波数(60Hz/50Hz)を切り替えるスイッチです。



注意

- ✓スイッチの切り替え操作は、エンジンを停止してから行ってください。

⑧. セルスターターボタン

- 1秒間のみボタンを押して、エンジンを始動させます。

⑨. リセットボタン

- ⑤過負荷警告灯が点灯し対策後、復帰させる場合にこのボタンを押して出力を再開します。

⑩. アース端子

- 感電防止のために、アース線を取り付ける端子です。
- 使用する電気機器をアースした場合、発電機も必ずアースしてください。

⑪. 交流コンセント

- 交流電気機器を接続するコンセントです。(AC100V 20A)
- (P.15) 【5.運転操作】の【・電源の取り出し方】を参照して電源を取り出してください。

⑫. 直流シガーソケット

- シガーソケットを接続し、直流電気を取り出します。(DC12V 8.3A)
- (P.15) 【5.運転操作】の【・電源の取り出し方】を参照して電源を取り出してください。

⑭. モードセレクトボタン

- マルチディスプレイの表示モードを切り替えるボタンです。

※詳細は、「P.16」を参照ください

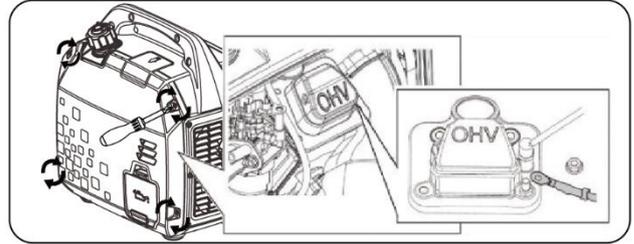
5. 運転操作

● 運転前に

※再度、【1. 安全にお使いいただくために】(P.3)を必ずお確かめの上、ご使用ください。

①. バッテリーアース線の接続

1. 4本のネジを緩め、④オイル側パネルカバーを取り外します。
2. 丸端子ハーネスを図の通りに付属の M6 ナットを使用してエンジンヘッドへ接続させ完了です。



②. エンジンオイルの給油及び確認



✓工場出荷時はエンジンオイルが入っていません。購入後は指定オイルを規定量入れてください。

▶エンジンオイルの給油

※あらかじめ、450ccの指定オイルを用意してください。

1. オイル点検カバーを外します。
2. オイルレベルゲージを外します。
3. 付属品の「オイルジョウゴ」の先端をオイル注入口に差し、予め用意した指定オイルを徐々に注入してください。



- ✓オイル量を見る際はレベルゲージをネジ込まず、差し込んでオイル量を測ってください。
- ✓指定オイル：4サイクルガソリンエンジンオイル SE 級以上、SAE 10W-30 または 10W-40
- ✓参考オイル量：0.45L
※オイルレベルゲージで上限近くまで達しない場合は 50cc 程足しながら注入してください



要点

- ✓作業は、平らな場所でエンジンを必ず停止した状態で行ってください。
- ✓エンジンを停止した直後は、オイルが熱い状態です。少し冷えた状態で作業を行ってください。

4. 「オイルジョウゴ」を外し、オイルレベルゲージを差して、オイル量を確認します。

要点

- ✓図のオイルレベルゲージの「上限」近くまで有るかを確認します。

5. 給油後、オイルレベルゲージを確実に取付けます。
6. オイル点検カバーを元に戻します。

③. 燃料の給油



注意

✓ 工場出荷時は燃料が入っていません。購入後はレギュラーガソリンを規定量入れてください。



警告



禁止

✓ 燃料補給を屋内や換気の悪い場所でしないでください。ガソリンは非常に燃えやすく、爆発や火災の危険があります。給油はエンジンを停止させてから行ってください。また、給油中は十分に火気に注意して行ってください。ガソリンからは揮発したガスが常に発生していますので、十分な換気を行ないながら作業をしてください。



火気厳禁

✓ ガソリンは消防法に適合した容器からこぼさないよう、ゆっくり補給してください。こぼれた場合は布などで完全に拭き取り引火に注意して処分してください。

✓ 静電気の放電火花が気化ガソリンに引火し火傷を負うおそれがありますので、身体に帯電した静電気を除去してください。本体の金属部分に触れると静電気を放電することができます。

✓ ガソリンは給油限界を超えて補給しないでください。入れすぎると燃料給油キャップからガソリンが漏れ出ることがあります。



実施

✓ 燃料補給時に燃料タンク内に水分・雪や氷・ゴミ・ホコリが入らないように注意してください。燃料タンクにそれらが入るとエンジン停止、始動困難など不調の原因となります。

▶燃料の給油

1. ④タンクキャップを外します。
2. 給油口から燃料がこぼれないようにゆっくり規定量を給油してください。
3. 給油が完了したら④タンクキャップを右に一杯に回しカチカチと空回りするまでしっかりと締め付けてください。



注意

✓ 指定ガソリン：レギュラーガソリン使用のこと。※ハイオクガソリン、混合ガソリン等その他は不可。

✓ 給油量　　：約 4.0L（ガス欠状態になった場合の給油量の目安です）

● エンジンの始動

▶ 始動方法は、「リコイルスターター」、「セルスターター(ボタン)」、「セルスターター(リモコン)」の方法があります。



禁止

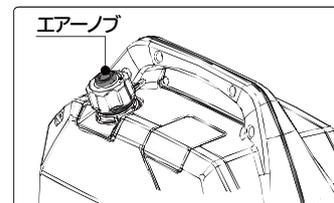


毒物注意

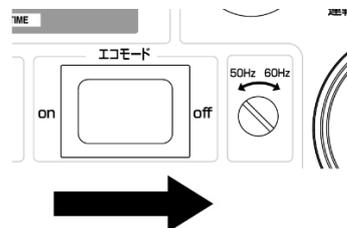
- ✓ 排気ガスには有毒な成分が含まれています。車内や閉め切った倉庫や車庫の中等の換気の悪い場所や風通しの悪い場所での使用はしないでください。一酸化炭素中毒等により死亡又は重度の後遺障害の恐れがあります。
- ✓ 使用可能な安全な場所かをご確認の上、使用ください。発電機付近に障害物や危険物、燃えやすい物無いか、また建物およびその他の設備から1m 以上離して設置してください。火災や故障の原因となります。また、キャンプ場、イベント会場等では使用禁止のルールがあるような場所でのご使用は予めご確認ください。
- ✓ 傾斜地で使用しないでください。平で硬い場所で使用してください。
- ✓ 電気機器を接続した状態でエンジンを始動しないでください。

①. リコイルスターター

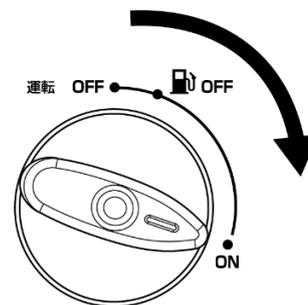
1. 燃料(ガソリン)が入っているかを確認します。
2. ①タンクキャップの“エアノブ”を“ON”の位置にします。



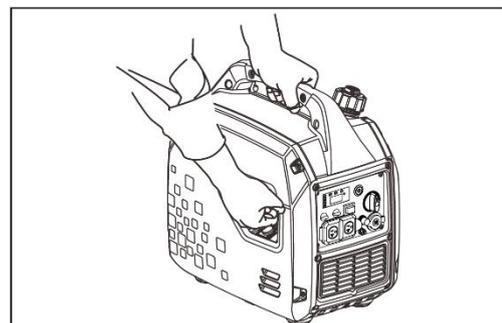
3. ③エコモードスイッチを「OFF」にします。



4. ①エンジンスイッチを「ON」にします。



5. 本機側の安全な部分をしっかり押さえ、
 - ④リコイルスターターを静かに引き、重くなる所で止め、次に強く引きます。



⚠️注意

- ✓ ㊸リコイルスターターは勢いよく引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると、点火火花がよく飛びエンジンがかかりやすくなります。逆にエンジン回転が遅いと火花が飛びにくくなりエンジンがかからないことがあります。
- ✓ ㊸リコイルスターターを引いたまま、手を離さないでください。㊸リコイルスターターが勢いよく戻り、始動装置や周りの部品等を破損することがあるので、ご注意ください。
- ✓ エンジン始動中は、㊸リコイルスターターを引かないでください。エンジン本体に悪影響を与えます。

6. 接続機器に応じて、③エコモードスイッチを「ON」にします。

②. セルスターター(ボタン)

1. 燃料(ガソリン)が入っているかを確認します。
2. ㊶タンクキャップの「エアノブ」を「ON」の位置にします。
3. ③エコモードスイッチを「OFF」にします。
4. ㊸セルスターターボタンを「1 秒間」のみ押します。
その後自動的にセルモーターが作動し、エンジンが始動します。



③. セルスターター(リモコン)

1. 燃料(ガソリン)が入っているかを確認します。
2. ㊶タンクキャップの「エアノブ」を「ON」の位置にします。
3. ③エコモードスイッチを「OFF」にします。
4. ㊹セルスターター(リモコン)の「ON」ボタンを「1 秒間」のみ押します。
その後自動的にセルモーターが作動し、エンジンが始動します。



⚠️注意

- ✓ ㊸セルスターターボタンまたは、㊹セルスターター(リモコン)の「ON」ボタンは 1 秒以上押し続けしないでください。
- ✓ 1 度の始動でエンジンが作動しなかった場合は、5 度までは自動的に再度セルモーターが始動しエンジンを作動させようとします。それでも始動しない場合は、リコイルスターターで始動させてください。
- ✓ この発電機は、「OPD 機能」(Output Power Delayed)が付いており、始動後約 20 秒間は電気を生成しません。
万一、接続されている機器があっても電力を供給せずに発電機が始動されます。
- ✓ この発電機には、オートチョークが装着しているため、チョークレバーはございません。
- ✓ 発電機を長期保存している場合、バッテリー電圧が弱くなっている可能性があります。その場合は、リコイルスターターで始動させてください。また、発電機が作動すると自動的に搭載バッテリーへの充電も開始されます。

● 電源の取り出し方

▲ 警告



禁止

- ✓ 電力会社からの電気配線には絶対に接続しないでください。本機や本機に接続された電気機器が故障、火災や人身事故の原因となります。
- ✓ 濡れた手で操作、金属物をコンセントに差し込んだりしないでください。感電の恐れがあります。
- ✓ 電気機器の電源が OFF になっていることを確認してから接続してください。

▲ 注意

- ✓ 定格出力を超えた状態(過負荷)での使用はしないでください。
- ✓ 使用前に接続するコードの損傷等が無いか確認してください。
- ✓ 使用する電気機器をアースした場合やアース付プラグを使用の際は、発電機側も必ずアースしてください。

▶【交流(AC)電源】

1. エンジンを始動後、④運転ランプが点灯していることを確認する。
2. ⑦周波数切替スイッチを確認し、適正な周波数になっているか確認する。
3. 電気機器の電源が OFF になっていることを確認し、電気機器のコンセントを接続する。
4. 接続後、電気機器の電源を ON にして、ご使用いただけます。

▶【直流(DC)電源】

1. エンジンを始動後、④運転ランプが点灯していることを確認する。
2. 電気機器の電源が OFF になっていることを確認し、⑫直流シガーソケットへ接続する。
3. 接続後、電気機器の電源を ON にして、ご使用いただけます。

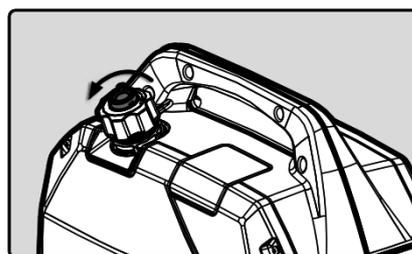
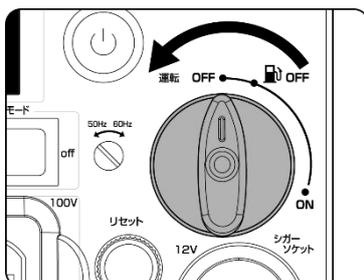
● エンジンの停止

▶エンジンの停止

▲ 注意

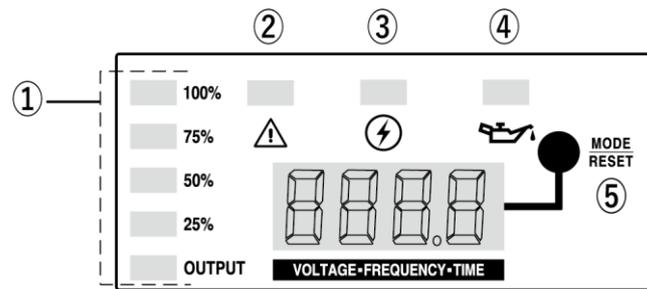
- ✓ エンジン停止の前に、接続されている全ての電気機器を外してください。
- ✓ 電気機器が接続され動作している間は、エンジンを停止しないでください。

1. 発電機から接続されている全ての電気機器を外します。
2. ③エコモードスイッチが「ON」になっている場合は、「OFF」にします。
3. 無負荷状態でエンジンを約 3 分間、運転させます。
4. ①エンジンスイッチを「OFF」にし、エンジンを停止させます。
5. ①タンクキャップの「エアノブ」を「OFF」の位置にして完了です。



● マルチディスプレイについて

- ▶ マルチディスプレイは、発電機の実出力状態や、出力電圧、周波数、動作時間等の情報を表示します。



①. 出力表示

- ▶ 出力が表示され、負荷の状態が%で確認できます。

②. 過負荷警告灯

- ▶ 接続電気機器への出力が過負荷になると、LED が点灯します。
※詳細は、「P9」を参照ください。

③. 運転ランプ

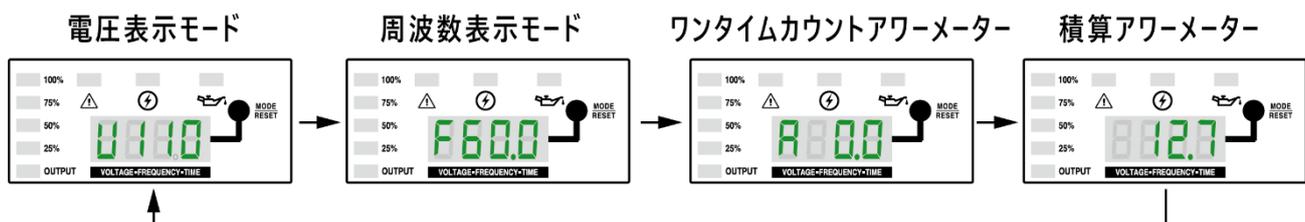
- ▶ エンジンが始動し、正常に運転されている間、LED が点灯します。

④. オイル警告灯

- ▶ エンジンオイル量が適正值より下回ると、LED が点滅します。

⑤. モードセレクトボタン

- ▶ マルチディスプレイの表示モードを切り替えるボタンです。



▶電圧表示モード

- ▶ 出力電圧を表示します。上図のイラストは、「V110」を示します。

▶周波数表示モード

- ▶ 設定周波数を表示します。上図のイラストは、「60Hz(ヘルツ)」を示します。

▶ワントタイムカウントアワーメーター モード

- ▶ 発電機を始動させ OFF にするまでワントタイムのみのアワーメーター。発電機 OFF でリセットされます。

▶積算アワーメーター モード

- ▶ 作動時間を積算した、アワーメーター。リセットは出来ません。

6. 点検・保守・保管



禁止

- ✓ 排気ガスには有毒な成分が含まれています。車内や室内など閉め切った倉庫や車庫の中等の換気の悪い場所や風通しの悪い場所での使用及び点検はしないでください。一酸化炭素中毒等により死亡又は重度の後遺障害の恐れがあります。
- ✓ 使用中、使用後のマフラー部は非常に熱くなっております。マフラー高温時には、マフラーに触れないでください。火傷をしたり衣服を焦がしたりする危険があります。また、高温の時は絶対にガソリンや引火性のあるワックスやクリーナー、塗料などのケミカル製品をマフラー等に垂らしたり吹き付けたりしないでください。火傷や本機の損傷、火災の原因となります。
- ✓ 点検作業を怠ると、重大な事故や故障の原因につながるので、必ず実施してください。



- ✓ 毎回使用前には、始業点検の実施、また定期点検も必ず行ってください。
- ✓ 点検作業の前に、接続されている全ての電気機器を外してから行ってください。
- ✓ 使用中及び点検中に異音、臭い、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買い上げ販売店またはサービス店にお申しつけください。

①. 始業点検

要点

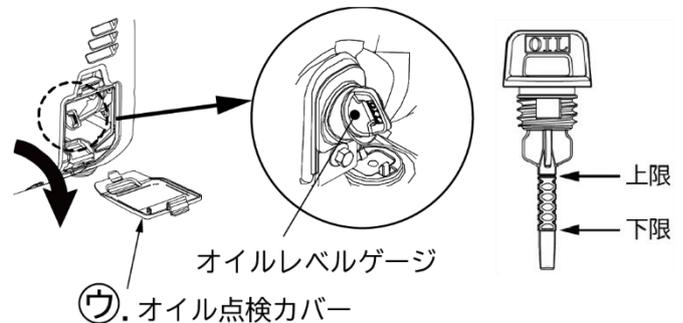
- ◆ 発電機をご使用になる前に必ず始業点検を行ってください。

1. ①タンクキャップを外し、燃料(レギュラーガソリン)が入っているかを目視で確認します。

要点

- ◆ 燃料の給油は、P.12 「③.燃料の給油」を参照してください。

2. ㊦オイル点検カバーを外し、オイルレベルゲージを外し、オイル量を確認します。



要点

- ◆ エンジンオイルの給油は、P.11 「②.エンジンオイルの給油及び確認」を参照してください。

②. 保 守(定期点検)

要点

- ◆ いつまでも発電機を快適にお使いいただくためにも、定期点検を実施してください。
- ◆ 下記の定期点検表に基づき、定期点検を実施してください。
- ◆ 過酷な環境下での使用の場合は、点検頻度を増やして実施してください。

点検項目		点検時期 (注1)	始業点検	10時間 または 2ヶ月毎	50時間 または 3ヶ月毎	100時間 または 6ヶ月毎	300時間 または 1年毎
燃料(レギュラーガソリン)	量、漏れ点検		○				
エンジンオイル	点検		○				
	交換			○ 初回のみ		○ 以後	
エアフィルター	点検		○				
	洗浄				○		
点火プラグ	点検・調整					○	
	交換						○
アイドルリング	点検・調整						○
バルブクリアランス	点検・調整						○
低透過性オイルパイプ	点検	※2年毎点検(必要なら交換)					
オイルパイプ	点検	※2年毎点検(必要なら交換)					

(注1).点検時期は表示されている時間毎または、年月毎のどちらか早い方で実施してください。

③. エンジンオイルの交換

- ✓ いつまでも発電機を快適にお使いいただくためにも、定期的なオイル交換を実施してください。オイル交換を怠ると内部部品の寿命を縮め、重大な故障の原因につながるので、必ず実施してください。
- ✓ エンジンオイルの点検及び交換作業は、本体を水平状態で実施してください。
- ✓ エンジン停止直後はエンジンやオイルの温度が高く火傷をする恐れがあります。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。
- ✓ エンジンオイルは本体を使用しなくても自然劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。
- ✓ オイルレベルゲージは手で確実に締め付けてください。締め付けが不十分だとオイルがにじむ事があります。

⚠注意

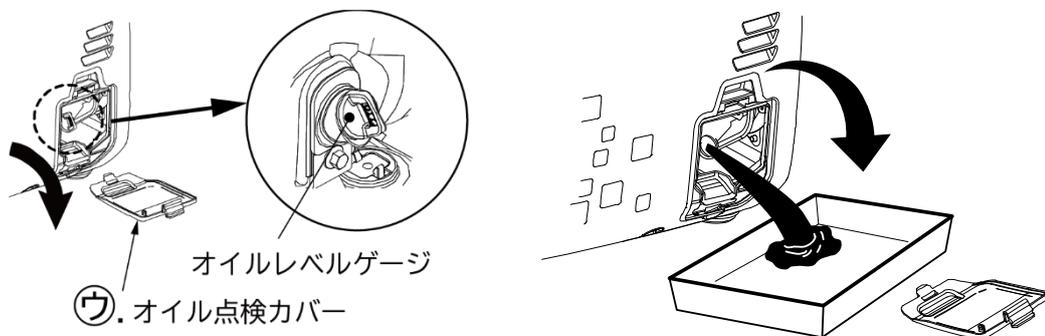
- ✓ エンジンオイルを交換後、廃油は地面や排水溝などに捨てずに、環境保護のため法令に従い適切に処理してください。不明な点はオイルを購入されたお店にご相談ください。



法令違反

● エンジンオイルの抜き方

1. 古いエンジンオイルを抜きやすくするために、エンジンを2～3分間始動します。
2. ㊦オイル点検カバーを外し、オイルレベルゲージを外します。
3. 廃油受け(古いエンジンオイルを受けるための容器)を用意し、発電機本体の近くに置きます。
4. 廃油受けに発電機本体を傾け、オイル注入口から古いエンジンオイルを抜き取ります。
5. 完全に抜き取ったら、エンジンオイルの抜き取りは完了です。



● エンジンオイルの給油

要点

◆ エンジンオイルの給油は、P11 「②.エンジンオイルの給油及び確認」を参照してください。

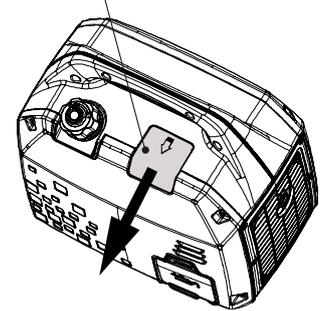
④. 点火プラグの点検と調整

- ✓ 点火プラグは、徐々に劣化するので、定期的な点検を行ってください。
- ✓ 点火プラグが劣化していると、火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。
- ✓ エンジン停止直後はエンジンの温度が高く火傷をする恐れがあります。十分に冷えてから点火プラグ点検作業を行ってください。
- ✓ 下記指定以外の点火プラグを使用しないでください。不調や故障の原因になります。
※指定点火プラグ：NGK / BP5H または Torch / E5T
- ✓ 点火プラグを取り付ける際は、最初に手でプラグを 3～4 回転まわし、ネジ山に問題が無いを確認してからプラグレンチで所定のトルクで確実に締め付けてください。
- ✓ 点火プラグは確実に締め付けてください。点火プラグが緩んだままエンジンを運転するとアイドリング不安定などのエンジン不調や故障の原因となります。

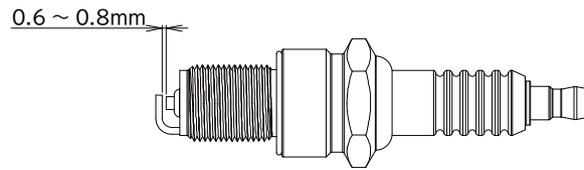
⚠注意

1. エンジンを停止させ、十分に冷えていることを確認し、⑤点火プラグ点検カバーを外します。
2. 点火プラグキャップを点火プラグより外します。
3. 付属のプラグレンチで点火プラグをエンジンから取り外します。
4. 取り外した点火プラグを目視で【焼け具合】、【汚れ】、【プラグギャップ(すき間)】等を確認します。
5. 【焼け具合】は、黒くなったり、白くなっている場合は、エアークリーナーを点検してください。正常な場合は、きつね色になっています。
6. 【汚れ】がある場合は、市販のパーツクリーナー等で清掃するか無い場合は、ワイヤブラシ等で清掃してください。

⑤点火プラグ点検カバー



7. 【プラグギャップ(すき間)】を、下記寸法に調整します。



8. 点検・調整作業が終わったら、点火プラグをエンジンに取付けます。

✓ 点火プラグを取り付ける際は、最初に手でプラグを 3~4 回転まわし、ネジ山に問題が無いの確認してからプラグレンチで所定のトルクで確実に締め付けてください。



✓ 点火プラグ締め付トルク：21 N/m

✓ 点火プラグは確実に締め付けてください。点火プラグが緩んだままエンジンを運転するとアイドリング不安定などのエンジン不調や故障の原因となります。

✓ 点火プラグを強く締め付け過ぎてネジ山を壊さないように注意してください。

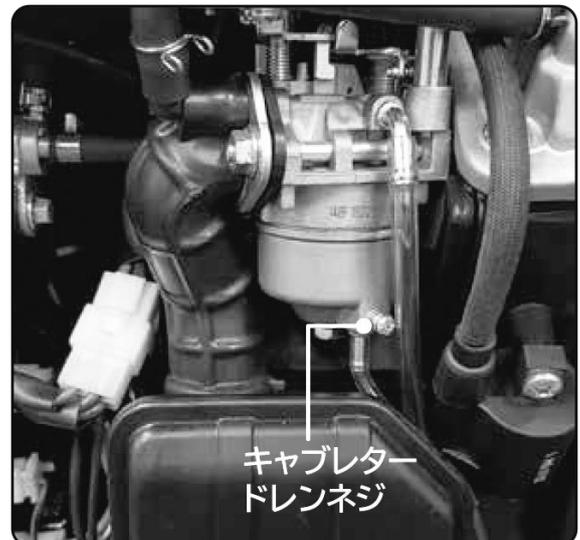
9. 点火プラグキャップを点火プラグに確実に取付けます。

10. 最後に、㊦点火プラグ点検カバーを元通りに戻して作業は完了です。

⑤. キャブレター残燃料排出

発電機の使用後および保管前にキャブレターの残燃料を排出してください。残燃料を排出すると、キャブレター内の燃料の停滞によって引き起こされる蓄積や詰まりを防ぐのに役立ちます。

1. 4本のネジを緩め、㊦オイル側パネルカバーを取り外します。
2. ドライバーでキャブレタードレンネジを開き、キャブレター内に溜まったガソリンを排出します。
3. 燃料が排出されたら、ドライバーでドレンネジを締めます。
4. 最後に、㊦オイル側パネルカバーを元通りに戻して作業は完了です。



要点

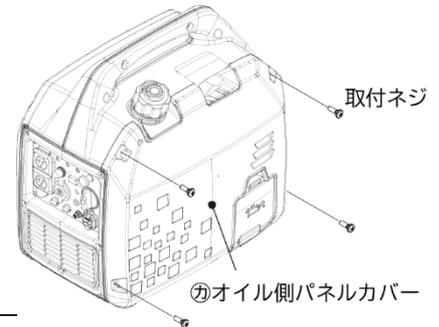
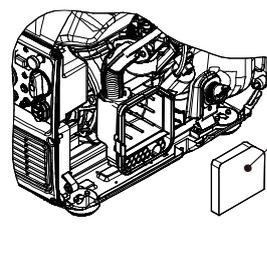
✓ 発電機を長期格納する前に、必ずキャブレターを空にしてください。

⑥. エアフィルターの清掃

⚠注意

- ✓ エアフィルターを汚れたままで使用すると、エンジンの内部損耗や出力低下をまねくので定期的な清掃を実施してください。
- ✓ エアフィルターの洗浄に、ガソリンは使用しないでください。
- ✓ エアフィルター(スポンジ)は、破れる恐れがあるので、絶対に両手では絞らないでください。

1. エンジンを停止させ、十分に冷えていることを確認し、4本の取付ネジを緩めて、㊦オイル側パネルカバーを外します。
2. エアフィルターカバーを取外し、エアフィルターを取り出します。



3. 取り出したエアフィルターを、きれいな灯油で洗います。

⚠注意

- ✓ エアフィルターの洗浄に、ガソリンは使用しないでください。

きれいな灯油で洗う



きれいな布で包んで
片手で握り絞ります



乾燥させます



エンジンオイルに
浸します



オイルが垂れない
程度に片手で絞ります



4. エアフィルターをきれいな布に包んで、片手で握って絞ります。

⚠注意

- ✓ エアフィルター(スポンジ)は、破れる恐れがあるので、絶対に両手でねじって絞らないでください。

5. 絞ったエアフィルターを乾燥させます。
6. 乾燥させたら、きれいなエンジンオイルに浸します。
7. 浸したオイルがエアフィルターから垂れない程度に、片手で握って取り除いてください。
8. エアフィルターを元通りに戻して、エアフィルターカバーを取付けます。
9. 最後に、㊦オイル側パネルカバーを元通りに戻して作業は完了です。

⑦. 保管(一時保管・長期格納)

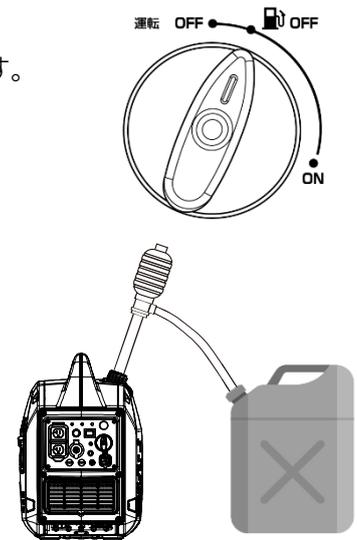
✓いつでも使用できるように、月1度、20分程度の試運転をおすすめいたします。長時間放置するとエンジンがかかりにくくなり故障の原因になります。

⚠注意

- ✓【一時保管】・・・次の使用が約30日以内の場合は、こちらの手順で実施してください。
- ✓【長期格納】・・・次の使用が上記以上の場合は、こちらの手順で実施してください。
- ✓ガソリンやオイルは自然劣化します。ガソリンは約30日に1回。オイルは定期点検表に基づき交換作業を実施してください。

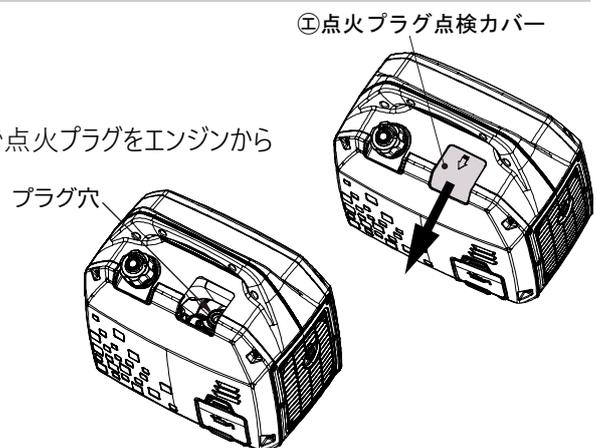
● 一時保管

1. エンジンを始動させ、①エンジンスイッチを「燃料 OFF」の位置にします。
こうすることで、ガソリンタンクからの燃料を遮断し、キャブレター内の燃料を燃焼します。
2. キャブレター内の燃料が無くなるとエンジンは自動的に停止します。(5分程)
3. ①エンジンスイッチを「OFF」の位置にし、エンジンを冷やします。
4. エンジンが十分に冷えていることを確認し、④タンクキャップを外して、ガソリンタンクに残っているガソリンを抜き取ります。
5. ④タンクキャップをしっかりと締め、エアノブを「OFF」にします。
6. 湿気が少なく、換気のよい室内で保管してください。



● 長期格納

1. 予め【一時保管】の内容を実施します。
2. ⑤点火プラグ点検カバーを外します。
3. 点火プラグキャップを点火プラグより外し、付属のプラグレンチで点火プラグをエンジンから取り外します。
4. 「プラグ穴」から、エンジンオイルを「3～5cc」を給油します。



5. 点火プラグを付ける前に、⑥リコイルスターターを3～5回引いて、オイルを馴染ませます。
6. 点火プラグをエンジンに取付け、プラグキャップを点火プラグにしっかりと取付けます。

⚠注意

- ✓点火プラグを取り付ける際は、最初に手でプラグを3～4回転まわし、ネジ山に問題が無いのを確認してからプラグレンチで所定のトルクで確実に締め付けてください。
- ✓点火プラグ締め付トルク：21 N/m
- ✓点火プラグは確実に締め付けてください。点火プラグが緩んだままエンジンを運転するとアイドリング不安定などのエンジン不調や故障の原因となります。
- ✓点火プラグを強く締め付け過ぎてネジ山を壊さないように注意してください。

7. ㊦点火プラグ点検カバーを元通りに戻します。
8. 最後に、㊦リコイルスターターをゆっくりと引いて一番重くなったところで止め、㊦リコイルスターターを戻します。
9. 各部を清掃して、防錆処理を実施します。
10. 湿気が少なく、換気のよい室内でカバー等をかけ保管してください。

7. 故障診断（故障対応）



注意

- ✓ 修理を依頼する前に、ご自身で以下の点検を行い、故障を大きくないように処置をし、むやみな分解等を行わず、お買い上げの販売店へご相談ください。
- ✓ よくある故障を下記にまとめましたので、ご確認ください。

故障	原因	対応方法
エンジンがかからない または、始動困難	燃料が入っていない	燃料(レギュラーガソリン)を給油します
	エアークラップがOFFになっている	㊦タンクキャップのエアークラップをONにする
	エンジンスイッチがOFFになっている	エンジンスイッチをONにする
	点火プラグが湿っている	チョークを引いたままにしていると、点火プラグが湿りがちとなるので点火プラグを外し、よく乾燥させます
	点火プラグの火花が出ない または火花が弱い	「P20 ㊦点火プラグの点検と調整」を参照し点検・調整します。または、新品プラグと交換してください
	エンジンオイル不足	「㊦オイル警告灯」が点滅している場合は、保護システムが作動し、エンジンがかからないのでエンジンオイルを規定量給油します
電気が取り出せない(出ない)	過負荷警告灯が点灯している	接続している電気器具の消費電力(W)を確認し、定格出力範囲内に減らしてください エンジンエアークラップが、塞がれてないか確認してください ㊦リセットボタンを押して、回路をリセットします
電気が弱い	使用周波数が適正でない	㊦周波数切替スイッチを正しい周波数に合わせる

8. 製品諸元表

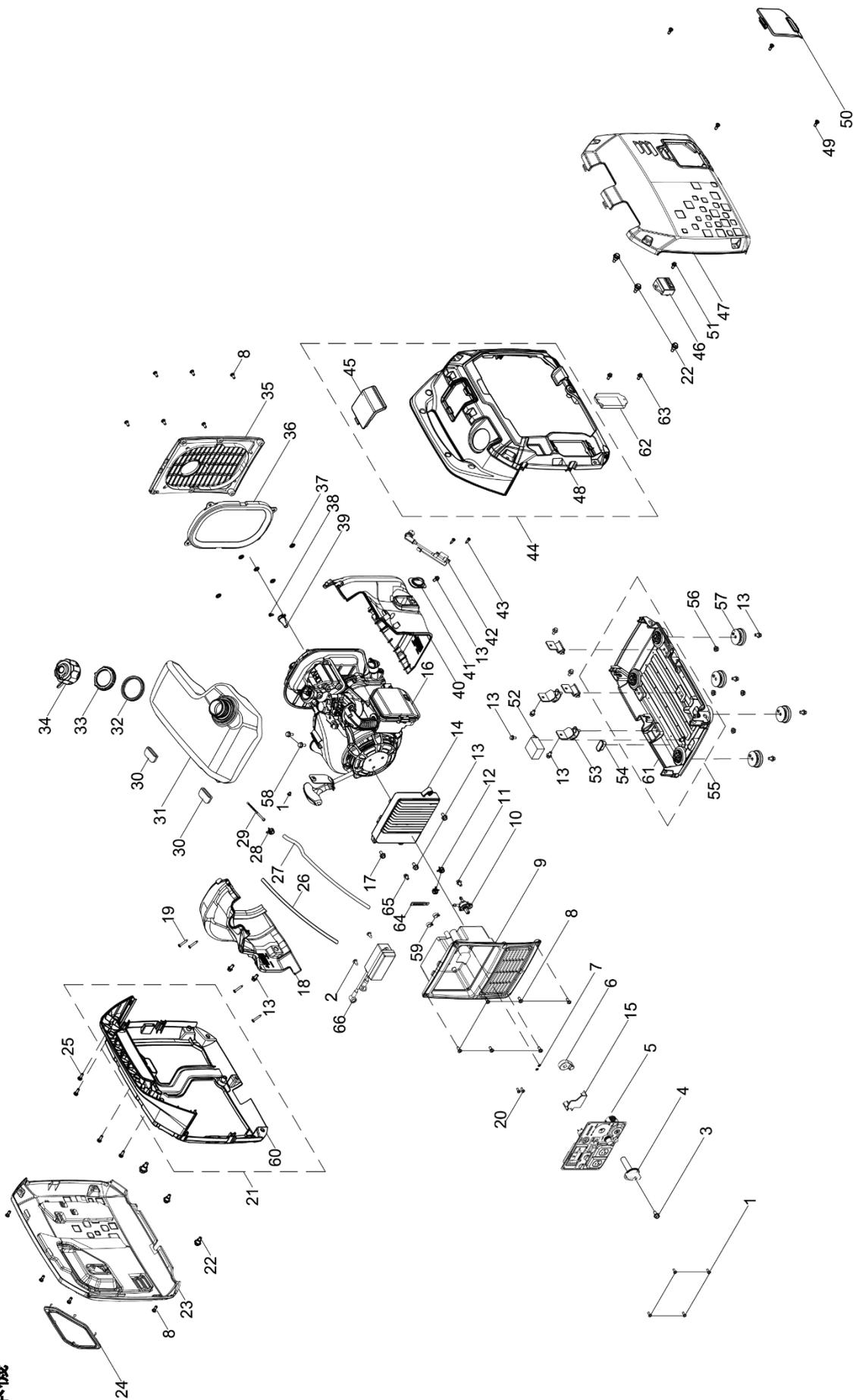
製 品 諸 元

型 式	DAYGENE1900e	
エ ン ジ ン 型 式	強制空冷 4 サイクルガソリンOHVエンジン	
総 排 気 量	79cc	
回 転 数	4800rpm	
始 動 方 式	リコイルスターター方式、セルモーター方式	
点 火 方 式	CDI点火方式	
オ イ ル 容 量	450 cc	
燃 料 タ ン ク 容 量	4 ℓ	
点 火 プ ラ グ	NGK BP5H Torch E5T	
本 体 型 式	フルカバーボディ	
全 長	485mm	
全 幅	340mm	
全 高	510mm	
総 重 量	22.7kg (乾燥重量=19.7kg)	
電 圧 調 整 方 式	インバーター方式	
交 流	定 格 出 力	1.9kw
	定 格 電 圧	AC : 100V
	定 格 電 流	AC : 20A
	定 格 周 波 数	50Hz/60Hz
直 流	定 格 電 圧	シガーソケット : 12.0V
	定 格 電 流	シガーソケット : 8.3A
連 続 運 転 時 間	75%負荷時= 4.0時間 50%負荷時= 5.7時間 25%負荷時= 7.9時間	
騒 音 レ ベ ル (7m)	最大66dB(A) 以下	
出 力 種 類	AC100V/20A x 2個 シガーソケット(12V/8.3A) x 1個	

× 毛

10. パーツリスト

本機

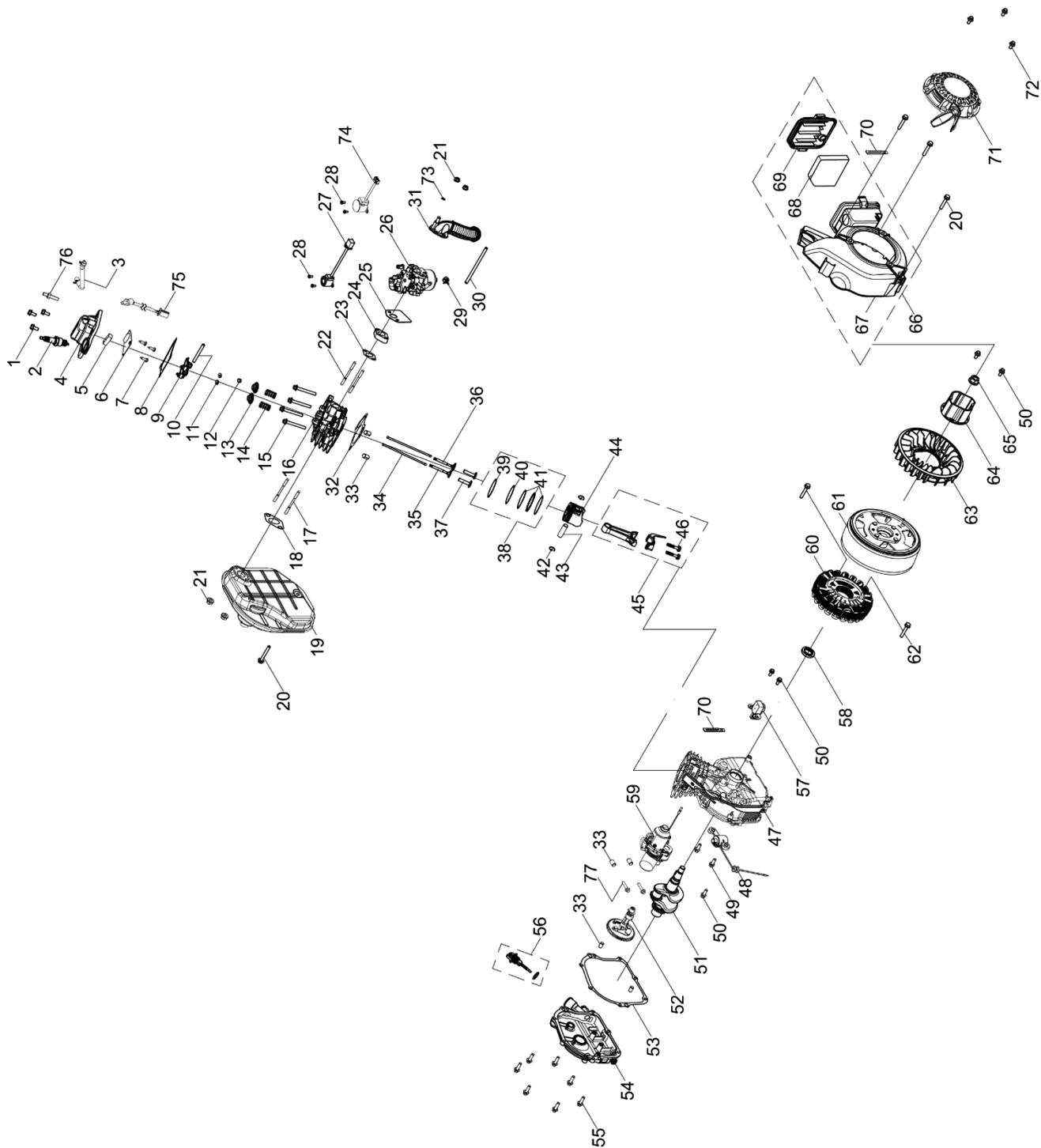


No.	部品名称	使用数量
49	スクリュ	4
50	オイル点検カバー	1
51	スクリュ, M6 x 12	1
52	レクチファイヤ	1
53	ダンパー	4
54	ラバーサポート	1
55	ボトムプレートASSY	1
56	ナット, M6	4
57	ゴム足	4
58	ボルト, M6 x 18	2
59	クリップ	2
60	フレーム, LH	1
61	ボトムプレート	1
62	リモートコントロール	1
63	ボルト, M6 x 16	2
64	クリップ	1
65	ボルト, M6 x 10	1
66	バッテリー(14.2V)	1

No.	部品名称	使用数量
25	スクリュ, M5 x 16	4
26	アウターチューブ	1
27	燃料ホース, 300mm	1
28	クランプ2, $\Phi 9.7 \times 8$	1
29	燃料ストレーナー	1
30	ラバーパッド	2
31	燃料タンク	1
32	ラバーワッシャ	1
33	ロックナット	1
34	タンクキャップ	1
35	マフラーカバー	1
36	シール	1
37	リテーナリング	5
38	セルフタッピングスクリュ, ST4.2 x 9.5	1
39	スパークアレスタASSY	1
40	リアエアガイド	1
41	オイルシール	1
42	イグニッションコイル	1
43	セルフタッピングスクリュ, ST4.8 x 20	2
44	フレームASSY, RH	1
45	点火プラグ点検カバー	1
46	イグナイター	1
47	パネルカバー, RH	1
48	リチウムイオンバッテリー 4	1

No.	部品名称	使用数量
1	スクリュ, M4 x 10	5
2	セルフタッピングスクリュ, ST4.2 x 16	2
3	スクリュ, M4 x 18	1
4	エンジンスイッチノブ	1
5	コントロールパネルASSY	1
6	スイッチブロック	1
7	ベアリングサークリップ, $\Phi 10.8 \times \Phi 6$	2
8	ステップボルト	16
9	パネルカバー	1
10	燃料コック	1
11	フランジ付六角ボルト, M6 x 14	1
12	クランプ1, $\Phi 8$	2
13	ボルト, M6 x 12	14
14	インバーターユニット/60Hz	1
15	ブロック	1
16	エンジンASSY	1
17	ボルト, M5 x 12	1
18	フロントエアガイド	1
19	セルフタッピングスクリュ, ST4.2 x 25	4
20	セルフタッピングスクリュ, ST4.2 x 10	2
21	フレームASSY, LH	1
22	ロケータリングボルト	6
23	パネルカバー, LH	1
24	リチウムイオンバッテリー	1

エンジン



No.	部品名称	使用数量
53	ガスケット, クランクケースカバー	1
54	クランクケースカバー	1
55	フランジ付六角ボルト, M6 x 20	7
56	オイルレベルゲージASSY	1
57	トリガー	1
58	オイルシール, $\Phi 20 \times \Phi 32 \times 6$	1
59	セルモーターASSY	1
60	ステータコイル	1
61	アウターローター	1
62	フランジ付六角ボルト, M6 x 32	2
63	クーリングファン	1
64	スターターブリー	1
65	フランジ付六角ナット, M12 x 1.25P	1
66	ファンカバーASSY	1
67	ファンカバー	1
68	エアフィルター	1
69	エアフィルターカバー	1
70	ワイヤクリップ	2
71	リコイルスターターASSY	1
72	フランジ付六角ボルト, M6 x 14	3
73	クランプ	1
74	ステッピングモーター	1
75	TEMPセンサー	1
76	スタッドボルト, M6(18 & 10)	1
77	フランジ付六角ボルト, M6 x 30	2

No.	部品名称	使用数量
27	ステッピングモーター	1
28	スクリュー, M4 x 6	4
29	クランプ 1, $\Phi 7.5$	1
30	ガソリンホース	1
31	インテークマニホールド	1
32	シリンドーヘッドガスケット	1
33	ダウエルピン, $\Phi 8 \times 12$	6
34	プッシュロッド	2
35	バルブ, EX	1
36	バルブ, IN	1
37	バルブリアクター	2
38	ピストンリングセット	1
39	ピストンリング, 1st	1
40	ピストンリング, 2nd	1
41	オイルリング	1
42	サークリップ	2
43	ピストンピン	1
44	ピストン	1
45	コンロッドASSY	1
46	ボルト, コンロッド	2
47	クランクケース	1
48	センサー, オイルレベル	1
49	フランジ付六角ボルト, M6 x 16	2
50	フランジ付六角ボルト, M6 x 12	5
51	クランクシャフト	1
52	カムシャフト	1

No.	部品名称	使用数量
1	フランジ付六角ボルト, M6 x 18	3
2	点火プラグ(Torch/E5T)or(NGK/BP5H)	1
3	ブリーザーホース	1
4	ヘッドカバーASSY	1
5	ストレナー, ヘッドカバー	1
6	インナーカバー, ヘッドカバー	1
7	スクリュー, M3 x 6.5	3
8	ガスケット, ヘッドカバー	1
9	ロッカーアームASSY	2
10	シャフト, ロッカーアーム	1
11	コレット, バルブ	2
12	バルブシール, IN	1
13	バルブスプリングシート, 182F	2
14	バルブスプリング	2
15	フランジ付六角ボルト, M6 x 50	4
16	シリンドーヘッド	1
17	スタッドボルト, M6 x 73	2
18	マフラーガスケット	1
19	マフラーASSY	1
20	フランジ付六角ボルト, M6 x 60	4
21	フランジ付六角ナット, M6	4
22	スタッドボルト, M6 x 87	2
23	キャブレターガスケット	1
24	インシュレーター	1
25	インシュレーターガスケット	1
26	キャブレターASSY	1

東証JASDAQ上場
株式会社 **デイトナ**
〒437-0226 静岡県周智郡森町一宮4805
<http://www.daytona.co.jp>

お客様相談窓口  **0120-60-4955**
デイトナ商品についてのご質問、ご意見をフリーダイヤルで受け付けております。



販売店名